



岩羽国境・名もなき山々を巡る旅

飯豊連峰 柵峰～飯森山～大塚山～三国岳～弥平四郎

佐貫、棚橋、松本

【日時】 2014年4月26日（土）～28日（月）

【メンバー】 L佐貫、棚橋、松本、野口

このところ積雪期・残雪期には道のない県境縦走を続けている。お気に入りの新潟・福島県境で残ってしまっている部分は標高が低く細い稜線が多く、せいぜい3月連休までだ。少し周辺に目を向けてみると福島（岩代）と山形（羽前）の県境である柵峰から飯豊まで、地味な稜線が続いているのに気付く。残雪が少なそうなことが気がかりだが、これは、面白いかも…。

4月26日 快晴

米沢駅からタクシーに揺られ小屋集落の最終人家へ。雪に覆われた林道を歩き始める。

林道終点から急な尾根の末端に取付くところがどうなっているか不安だったが、幸い小さな橋が沢にかかっており、ここからしばらくは足跡がうっすら残っていた。どこが夏道かは判然とせず、尾根上はどうも藪っぽく見えるので右手の沢状をルートにとった。しかし稜線好きの棚橋さんはその藪っぽい尾根に乗り進んでいったため、パーティーは二手に分かれて進むことになる。しばらく進んでから「そろそろ合流しようか」ということになり、尾根に乗ると、そこは涼しかった沢とは一転して太陽が遠慮なく照りつける別世界だ。物凄い暑さにクラクラしながら取りあえず県境尾根を目指す。休憩にはカルピスかき氷が欠かせない。



柵峰に立つ。縦走はこれからだ

登ってきた尾根が県境に合流する地点には鳥居の記号があるが、周囲にはそれらし



き人工物は見当たらない。梅峰はここから 1km ほど東側にあり、縦走していく方向とは逆なので県境との合流点に荷物を置いて往復することにした。足跡に誘われるように間違った方向に進んでしまってから軌道修正し、なだらかな山頂には 12 時半に到着。早い時間から歩いているので達成感が出かかっているが、ここはまだ最初のピーク。飯豊は霞んで見えるくらい遠い。たどり着けるのか不安になるくらいだが、一方ここから見る飯森山にはたっぴりと雪がついており、無雪期は大変な藪という噂のこの区間は問題なく通過出来そうなことに安堵する。

夜行の疲れもあり、初日だけのビールを早く開けたいという思いで最後のパワーと汗を振り絞って幕営目標地点へと向かう。地形図で目星をつけておいた c1441 は、大きな山毛櫨が点在する予想以上に良い幕場であった。(佐貫記) [歩行距離 : 11.8km]

4月27日 快晴

最も行動予定が長い今日は 2 時起き 4 時出発と気合いを入れたところ、3 時半には出発予定が完了してしまった。しかし未だ夜が明ける兆しもない。昨日の目論見では雪の締まっているところをアイゼンを効かせて飯森山を一気に越えようとのことだったので、視界が得られないと雪の状態を確認し辛いと考え、少し待つことにする。それでも 4 時過ぎ、明るくなる前にヘッドライトを点けて出発する。

思っていたほど冷え込まなかったにも関わらず比較的良い雪の状態の中、私自身 4 回目の飯森山山頂を踏む。何かと縁のある山だ。鉢伏山への登山道を分けると藪が心配されたが有り難いことに、昨日の梅峰から続く県境尾根を踏破するには十分なだけの雪が残っていた。



無名ピークを結ぶ美しい稜線

藪漕ぎは必至と大いに覚悟していたが殆ど雪に覆われており、嬉しい誤算だ。しばらく名も無きピークを結ぶ尾根をウネウネと進むと大塚山に到着する。山頂には雪は無く、三角点が確認できる。とても登山道があるように思えないロケーション

といい、ここもなかなかのマイナー名山であるとお見受けする。そこを飯森山からトレースできたなんて、大満足である。

ここから赤崩山まで、またしても名も無きピークを結んでウネウネと進む。しかし下り基調なので2時間と掛からない。赤崩山から少し下つてみると沢型の右岸段丘が、どうやら林道のような。谷地平に向かって進むと沢型に入る枝沢の一部が顔を出しており、期待通り水を汲むことができた。

谷地平では橋の手前の一番良い場所にテントを張る。水を作る必要もないので干し物を広げた後、テントの外で宴会に突入。春山 JOY を満喫した。(棚橋記) [歩行距離：15.9km]



谷地平での優雅なひととき

4月28日 曇りのち晴れ

すてきな幕営地だった谷地平をあとに、地形図にある林道に沿ってしばらく進む。1時間ほど歩いた、林道がヘアピンカーブのように曲がる手前から尾根に乗った。ここから尾根を北西に進む。右手は山形県飯豊町、左手は福島県喜多方市。

県境の狭間を川入切合へ。これまでもそうだったが、雪は

思った以上に付いていて、しかも早朝の雪は締まって歩きやすい。さくさくと歩が進む。

川入切合から五段山へは長い登りだ。登山道があるようだが、もちろん雪の下。雪庇を避けつつ登る。1250mでいったん傾斜はゆるみ、もうひと越えて五段山だ。だだっ広い山頂からは、おととい登った梅峰や飯森山が遥か彼方に見えた。よくぞここまで歩いてきたなあ。小休止後、西へ進路を取り、牛ヶ岩山に向かう。ブナの太い雪尾根はGメン '75のように(野口くんにはわからないね)、10人くらい横一列で並んで歩けるくらいだ。気分よく牛ヶ岩山から地蔵山へ。

地蔵山の奥に三国岳が見えるが、登る尾根の雪がところどころ切れているのが、遠目



<http://www.tomanokaze.dojin.com/>

にも確認できた。

地蔵山に着くと、風が出てきて急に冷えてきた。ここから 1419m までいったん下り、その先、尾根はだんだん細くなって、直下には岩マーク（剣ヶ峰）もある。のんびりムードから、ちょっと緊張ムードになる。野口くんを先頭に続く。後から棚橋さんがライン取りをアドバイスしながら進む。途中、雪が切れ始めたところから、棚橋さんにトップを交代。切れ切れの雪をうまくつなげていく。2 番目の私は、そのライン取りを見ながら、そうやっていくのか、とじっと見ながら続く。細いリッジを通過している途中、後ろから「クララが歩いた～」と佐貫さんがおかしそうに言った。なんのこっちゃ？と振り返ると、すぐに意味がわかった。そこには不安そうに、リッジ上を歩くぎこちない野口くんの姿が。まあ、クララネタも野口くんにはわからないと思いますけど（世代の壁は厚い）、言い得て妙である。「だって、怖いんですよ～」と野口くん。剣ヶ峰の岩場も多少出ているが、そこはうまく越えて、急な斜面を登りきると三国小屋に到着した。

さて、時刻は 10 時過ぎ。本日は三国小屋泊だったのだが、思いのほか早く着いてしまった。ここで佐貫さんから、今後の行程について提案があった。①三国小屋に泊まる ②下って、祓川小屋に泊まる ③下山して、どこかの民宿に泊まる

野口くんはせっかくだから①でいいです、と言っていたが、棚橋さんも佐貫さんもその気がないのは、すぐに見て取れた。②は小屋に入れるかどうかわからない。ということで、③に決まった。電波が通じたので、タクシーを予約し、ついでに本日泊まれる場所も確認する。山都に泊まれる場所があったようだ。となると、急いで下山しなければならない。疣岩山へはまだ雪がつながっているが、山頂手前で雪が腐って、落とし穴になっていた。

「野口くんがはまったりして」と言っているそばから、「があー！」と後ろから大声がした。期待どおりの男である。巻岩山から先、私と野口くんが西に延びる尾根に入ってしまうというアホをやらかしたが、ともあれ、上ノ越をめざして、一行はぐんぐん下る。



割れた斜面を縫って進む



1297mのポコを越えた先が上ノ越で、そこからの夏道があるのだが、ここはまだ雪に覆われていた。地形図と確認しながら、急な斜面を下り、林道終点到着。一帯は新緑まっさかり。入山時より、麓は確実に季節が進んでいた。タクシーの待つ弥平四郎集落へは1時間30分ほど林道を歩く。ああ、山旅が終わってしまう…ちよっぴり寂しい気持ちになったが、そっか、ビールが飲めるんだ！ と、思ったとたん、私の足は、そそくさと下界へ急ぐのでありました。(松本記) [歩行距離：20.4km]

行く前に地図を見た時、こんなに歩けるのかなと不安でしたが、歩き切れて安堵しています。他パーティーのいない山域、秘境感を楽しめました。そして、最終日に3日間歩いてきた山々を振り返って眺めた時の爽快感は忘れられません。(野口記)

【行程】

4/26 小屋集落(6:26)～登山道入口(8:11)～樺峰神社(11:59)～樺峰山頂(12:34/38)～樺峰神社(13:02/16)～Co1441m 付近 C1(13:46)

4/27 C1(4:11)～飯森山(4:50/54)～大塚山(10:34/50)～赤崩山(12:40/57)～谷地平 C2(13:37)

4/28 C2(4:31)～登山道入口(5:23)～川入切合(6:04/16)～五段山(7:03/17)～牛ヶ岩山(7:56)～地藏山(8:54/59)～三国岳(10:20/54)～疣岩山(11:53)～巻岩山(12:17/33)～上ノ越(13:15/32)～祓川駐車場(13:53/55)～弥平四郎(15:43)

